



Title	WHOニュース 7月/8月/9月
Author(s)	林, 正幸; 渡部, 雄一
Citation	目で見るWHO. 2025, 91, p. 24-29
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/101042
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

7
月
July

薬剤耐性診断イニシアチブ

WHO 薬剤耐性診断イニシアチブの目標は、診断法を世界的な AMR 対策の最前線に位置づけ、微生物検査施設の能力を強化し、医療システムのあらゆるレベルや地域社会で細菌、真菌、耐性病原体に関する質の高い検査を公平に受けられるようにするために各国を支援することです。

保健サービスの効果的な利用を妨げる障壁の評価を実施するためのハンドブック

2021 年には 45 億人が自国において必要不可欠な保健サービスが完全にカバーされていませんでした。2019 年には、経済的困難を経験している総人口は 20 億人と推定されています。WHO の第 14 次 総合事業計画 2025 – 2028 (GPW14) では「誰一人取り残さないための行動拡大」のため、保健サービスの効果的な適用を阻む障壁を特定するための手法をまとめたハンドブックを発表しました。

世界母乳育児週間 2024 (8/1 ~ 7)

2024 年のテーマは「格差をなくす：すべての人に母乳育児を支援（仮訳）(Closing the gap : Breastfeeding support for all)」です。母乳育児は、子どもの健康と生存を確保するための最も効果的な方法の 1 つです。

2023 年、世界の小児予防接種レベルは停滞

世界の小児予防接種率は 2023 年に停滞し、パンデミック前の 2019 年と比べて、予防接種を受けていないまたは十分に受けられていない子どもが 270 万人増えています。

WHO : C 型肝炎ウイルスの自己検査を初めて事前認証

WHO は、初の C 型肝炎ウイルス (HCV) 自己検査キット「OraQuick HCV self-test」を事前認証しました。

医療技術と医療機器へのアクセスを促進する MeDevIS プラットフォーム

このプラットフォームには、2,301 種類の医療機器が含まれています。

難民・移民の健康促進に関する WHO グローバル行動計画 (2019 ~ 2030)

国際移民の数は世界人口に占める割合が増加し、2000 年の世界人口の 2.8% から、2017 年には 3.4% となり、国際移民の総数はこの間に 1 億 7300 万人から 2 億 5800 万人に増加しています。この計画文書は、世界行動計画の主要な文章を統合し、より広範な普及と理解を促進するものです。

すべての人のための性と生殖に関する健康と権利を求める国連共同声明

WHO、国連人口基金、ユニセフ、国連合同エイズ計画、UN Women が世界保

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですが、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリークス、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



健デーに合わせ、ユニバーサルヘルスカバレッジの一環としてセクシュアル & リプロダクティブヘルスケアへのアクセス強化を求める共同声明を発表しました。

WHO : 低資源環境向け革新的医療技術概要 2024

2024年版の低資源環境向け革新的医療技術概要には、市販のソリューションとプロトタイプが含まれ、この第7版では、21の技術が紹介され、それぞれに完全な評価が加えられており、以前の概要版で取り上げられた技術の更新も含まれています。

健康危機への対応 : WHO 2023 年次報告書

本報告書は、2023年におけるWHOの健康緊急事態への対応のハイライトを、その年の緊急アピールで特定された戦略目標および優先国に沿ってまとめたものです。

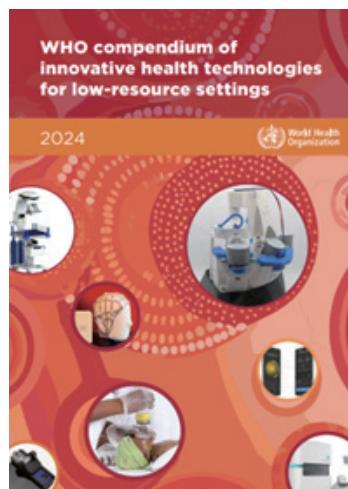
2023年、世界の11人に1人が飢餓に直面（国連報告書）

国連の5つの専門機関が発表した「世界の食料安全保障と栄養の現状(SOFI)」報告書によると、2023年には約7億

3,300万人が飢餓に直面しており、これは世界全体では11人に1人、アフリカでは5人に1人に相当します。

HIV、ウイルス性肝炎、性感染症に関するグローバルヘルス部門戦略の実施（2022 – 2030年）：進捗状況とギャップに関する2024年報告書

本報告書は、2022年から2030年まで、2年ごとに報告する「HIV、ウイルス性肝炎、性感染症に関するグローバル健康セクター戦略実施状況」シリーズの第1弾です。本報告書は、2022年から2030年まで、2年ごとに報告する「HIV、ウイルス性肝炎、性感染症に関するグローバル健康セクター戦略実施状況」シリーズの第1弾です。



WHO compendium of innovative health technologies for low-resource settings 2024
<https://www.who.int/publications/item/9789240095212>



WHO global action plan on promoting the health of refugees and migrants, 2019–2030
<https://www.who.int/publications/item/9789240093928>

7月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。 <https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- HIVとエイズ • 予防接種率 • 麻疹(はしか) • 破傷風 • ジフテリア • 砂嵐と砂塵嵐 • 双極性障害
- 淋病(淋菌感染症) • 多剤耐性淋菌感染症 • アルコール

8月
August

感染症対策イノベーション連合と WHO、次のパンデミックに備えるため各国に研究戦略を要請

感染症対策イノベーション連合と WHO は、研究者と各政府に対し、次のパンデミックに備えるためのグローバル研究を強化・加速するよう要請。不測の変種、新興病原体、人獣共通感染症の波及、病原体 X と呼ばれる未知の脅威に対する世界の迅速な対応能力を強化することを目的とした戦略。

母乳育児支援への平等なアクセスを呼びかけ；ユニセフと WHO

過去 12 年間で、母乳のみで育てられる生後 6 ヶ月未満の乳児の数は、世界中で 10% 以上増加。

今年の世界母乳育児週間では、「格差をなくす：すべての人に母乳育児を支援」というテーマの下、母乳育児支援を改善する必要性を強調。

鳥インフルエンザ (H5N1) に対する mRNA ワクチン開発を推進する新イニシアチブ

中低所得国の製造業者向けに、ヒト鳥インフルエンザ (H5N1) メッセンジャー RNA (mRNA) ワクチン候補の開発などを加速することを目的とした新しいプロジェクトが発足。

思春期の少女は、憂慮すべき割合で親密なパートナーの暴力に直面

新たな分析によると、交際経験のある 10 代の少女は 20 歳になるまでに 6 人に 1 人が親密なパートナーから身体的・性的暴力を経験していることが明らかに。

エムポックス（サル痘：MpoX）を国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態と宣言（WHO）

MpoX アフリカの多くの国々で急増しているのを受け、2022 年 7 月に出されて以来、2 度目となる国際保健規則 (2005IHR) に基づく『国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態』を宣言。

日本が WHO の健康サービスと緊急時対応の改善活動を支援

日本政府の支援により、エチオピア、ガザ地区、太平洋諸島諸国、ソマリア、シリア、西太平洋地域、ウクライナで健康緊急事態への対応を実施し、脆弱な人々に必要不可欠な保健サービスを提供。

9月17日は世界患者安全の日

World Patient Safety Day は、患者の安全性を向上させるために、公衆衛生に対する意識を高め、患者、医療従事者、政策立案者、ヘルスケアリーダー間の協力を促進する機会。

保健緊急時の「公衆衛生・社会対策政策モニタリング」に関するグローバル・ガイダンス

このガイダンスは、公衆衛生・社会的対策 (PHSM) について、データ収集とモニタリングを促進することを目的とし、エビデンスベースな公衆衛生緊急事態への対応や政策立案ための主要な行動を示している。

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリークス、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



世界人道デーの悲惨な節目：ウクライナの医療施設への攻撃 1940件記録

これは、WHOがこれまでに記録した世界規模の人道的緊急事態の中で最大の数字。

9月10日は世界自殺予防デー（World Suicide Prevention Day）

2024 – 2026年の世界自殺予防デーの3年ごとのテーマは、「自殺に関するナラティブを変えよう（Changing the Narrative on Suicide）」で、「会話を始めよう（Start the Conversation）」という行動を呼びかけています。

オロプーシェ熱、南北アメリカで増加

オロプーシェウイルス熱は、昆虫に咬ま

れることで、オロプーシェウイルス（OROV）に感染することにより引き起こされる発熱性疾患。気候変動、森林伐採、無計画な都市化などにより、アマゾン地域以外のブラジルの州や、ボリビア、キューバなど、これまで症例が報告されていない国々にも広がっている。



WHO Director-General declares mpox outbreak a public health emergency of international concern (写真はWHOHPより)



CEPI and WHO urge broader research strategy for countries to prepare for the next pandemic

Photo credit: WHO / NOOR / Olga Kravets, University Hospital Lyon laboratories: sequencing and respiratory viruses. Lyon, France, 9 March 2022.

8月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。 <https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・死亡原因トップ10
- ・日本脳炎
- ・健康リテラシー

9月
September

WHO ; mpox アウトブレイク阻止のため、グローバルな戦略的準備・対応計画を開始

mpox が国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) とされたことを受け、ヒトからヒトへの感染アウトブレイクを阻止するためのグローバルな 戰略的準備・対応計画を開始。

プライマリヘルスケア志向の保健システム開発における前向きな実践 - 事例集

WHO 南東アジア地域の国々は、20 のケーススタディを選び、PHC のビジョンを実現するための知識を抽出、事例集とした。

WHO、新規または再興病原体の起源を理解するための世界的枠組みを発表

新規病原体起源科学諮問グループ (SAGO) の支援を受けて、新規および再興病原体の起源を加盟国が包括的に調査するためのグローバルフレームワークを発表。

コレラによる死者数が大きく増加

2023 年のコレラ患者報告数は前年と比較して 13 % 増加し、死者数は 71 % 増加。紛争、気候変動、不十分な安全な水と衛生設備、貧困や自然災害による人口移動などが、コレラ発生の増加に関連。

「抗生物質製造工程における環境汚染」に関する初めてのガイドンス

AMR の出現と拡散のリスクを低減するため製造工程における抗生物質汚染に関する初の ガイダンスを発表。抗生物質製造における廃水および固体廃棄物管理に関するもの。

鳥インフルエンザウイルスに曝露された人の感染リスクを軽減するための実践的暫定ガイドンス

このガイドンスは、国家当局は臨床症状や徴候の有無にかかわらず、職業的に曝露された人々を監視し、その程度を理解し、リスクを評価するために、科学的調査とサービスの強化を実施することを推奨。

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの追跡 (2023 年グローバル・モニタリング・レポート)

報告書によると、2021 年現在、世界人口の約半分にあたる 45 億人が必要不可欠な保健サービスの対象となっておらず、2019 年には、極度の貧困状態にある 3 億 4,400 万人を含む約 20 億人が、保健医療費の自己負担による経済的困難を経験。



Tracking universal health coverage
2023 global monitoring report

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリークス、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



ガザで約 56 万人の子どもにポリオ予防接種

9月 1 日から 12 日までの 3 段階にわたりて 10 歳未満の約 56 万人の子供たちにポリオの予防接種（新型経口ポリオワクチン 2 型 (nOPV2) が投与）を実施。

デジタルヘルスの推進で、非感染性疾患による数百万人の死亡を防ぐことができる

デジタルヘルス介入に、患者一人当たり年間 24 米ドルを追加投資すれば、今後 10 年間で 200 万人以上の非感染性疾患による命を救うことができるとし、こ

の投資により、約 700 万件の急性発症や入院を回避でき、世界中の医療システムへの負担を大幅に軽減できる可能性があると記載。

思春期の健康とウェルビーイングの確保は、将来の世代の健康にとって不可欠

思春期は、身体的、情緒的、社会的变化が起こる人間の発達における独特かつ重要な段階であり、健康な生活を送るために長期的な基盤を築く上で極めて重要な時期。新しい出版物によると、健康ニーズを満たすためには、緊急に投資を増やす必要があるとし、過去 10 年間に観察された

思春期の健康に関するいくつかの憂慮すべき傾向が強調され、早急な対策の必要性が指摘されている。

持続可能な開発目標指標 3.9.1：大気汚染による死亡率

2019 年には、大気汚染（環境汚染と家庭内汚染の両方）が、健康に対する最大の環境リスクとなり、これらの死亡のうち、83 % は非感染性疾患 (NCDs) によるものであり、大気汚染を NCDs に関するグローバルアジェンダに完全に統合することが急務。



Around 560 000 children vaccinated in first round of polio campaign in Gaza

Photo credit:WHO

9月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。 <https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・メジナ虫症
- ・環境(屋外)汚染
- ・単純ヘルペス
- ・コレラ
- ・職場のメンタルヘルス
- ・自殺
- ・溺水
- ・エムポックス